

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学
所属:看護学部
名前:上野雪絵
作成日:2026年5月1日

1. 責務(何を行っているか、何を果たしているか)

成人看護学では、講義・演習・実習指導を担当しています。学校教育の段階では、まず基本的な知識と理解を丁寧に積み重ねることが重要であり、そのため教育の場では看護師としての視点とは異なる「教員としての役割」を大切にしています。これまでも時代に応じた教育方法を取り入れながら、患者を看る者として根底に必要となる誠実さだけは変わらず大切にしてきました。今後もこの誠実さを基盤に、学生が学びやすい教授方法を工夫していきたいと考えています。授業や実習では、「教えたつもり」「伝えたつもり」にならないよう、学生の理解を確認しながら進めています。学生一人ひとりの個性や受け取り方に合わせて伝え方を調整し、その学生にとって「届く指導」となるよう努めています。

私の教育観は、教員自身が学生を大切にする姿勢を示すことが、学生が将来、患者を大切にする看護実践へとつながるといふ考えにあります。この思いは教員になって以来、変わらず私の教育の軸となっています。学生の成長を願うからこそ、必要な場面では丁寧に向き合い、学びにつながる関わりを大切にしています。

2. 理念(教育に対する考え方)

私の教育理念は、学生が人間の複雑な感情や背景を理解し、患者の人生の文脈に寄り添う姿勢を育むことにあります。人間と対等に向き合う医療者には、「この人に話せば大丈夫」と感じてもらえるような信頼と安心感が不可欠であり、それは相手の思いや背景を理解しようとする姿勢によって初めて成立します。その基盤となるのが「人を理解する力」です。多くの人は、自分の語りに相手の主観が差し込まれると、先に相手を理解しなければならなくなり、そこで話すことをやめてしまいます。だからこそ、医療者にはまず相手の思いをそのまま受け止める姿勢が求められます。

現代はデジタル化の進行により、他者と深く関わる経験が乏しく、人間理解の基盤となる対話経験を積みにくい状況にあります。そのため、看護教育では知識の習得にとどまらず、こうした信頼関係を築くための人間理解の力を育てることが重要だと考えています。技術がどれほど進化しても、人間の尊厳や希望といった本質的価値は変わらず、学生が人と向き合う姿勢を育むことは、看護教育の根幹を支える重要な要素だと考えています。

3. 方法(教育方法において大切にしていること)

- ・三観(時に四観)
- ・ナラティブ・アプローチ
- ・「人を理解する力」の育成には高文脈文化論
- ・「学習を構造化」するために低文脈文化論
- ・メタ認知理論
- ・変容的学習論

4. 成果(学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について)

5. 目標(教育活動の中短期目標と達成時期)

* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

【添付資料】

- * TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
(シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようなしておきます。)